

令和 6 年度実績

金沢市立病院経営強化プラン点検・評価報告書

令和 7 年 11 月

金沢市立病院

目次

1. 金沢市立病院経営強化プランの概要	P.2
2. 事業計画と令和6年度決算	P.3
①収支計画	P.3
②経営指標	P.4
3. 令和6年度取り組み結果の概要	P.5
4. 目標達成に向けた具体的な取組	P.7
(1)役割・機能の最適化と連携の強化	P.9
(2)医師・看護師等の確保と働き方改革	P.18
(3)新興感染症拡大時に備えた平時からの取組	P.21
(4)施設・設備の最適化	P.22
5. 取り組みに対する評価	P.25

1. 金沢市立病院経営強化プランの概要

金沢市立病院では、老朽化が進んでいる現病院の再整備に向けた経営健全化が必要であることから、国のガイドラインをもとに、石川県の地域医療構想等との整合性を図りながら、新たな経営強化プランを策定しました。

今後、この経営強化プランに基づき、救急医療、新興感染症をはじめとする感染症医療、専門医療等の政策的医療を積極的に展開するとともに、地域の医療機関等との連携、医師の働き方改革、医療人の育成、医療のDX化、経営の効率化等の施策を進め、病院の経営強化を図り、市民・地域住民の生命と健康を守るために、信頼される質の高い医療サービスを提供する病院を目指していきます。

【基本方針】

市民の生命と健康を守るために、地域住民、診療所、病院、保健・介護・福祉施設と連携して、地域住民を主体とした“地域密着型急性期病院”となることにより、地域保健医療の中心的医療機関となります。

【計画期間】

令和6年度～令和9年度までの4年間

【施策目標と取組項目】

(1) 役割・機能の最適化と連携の強化

- ① 本院の果たすべき役割
- ② 機能分化・連携強化
- ③ 住民参加型医療の実践

(2) 医師・看護師等の確保と働き方改革

- ① 医師・看護師の確保
- ② 臨床研修医の受け入れ等を通じた若手医師の確保
- ③ 医師の働き方改革への対応

(3) 新興感染症拡大時等に備えた平時からの取組

(4) 施設・設備の最適化

2. 事業計画と令和6年度決算

経営強化プラン（6年度～9年度）

（1）収益的収支

①収支計画（税抜）

（単位：千円）

区分		R4	R5	R6	R7	R8	R9 (目標値)
収入	医業収益	4,531,597	4,910,631	5,072,774			5,869,494
	入院収益	3,018,095	3,360,298	3,514,557			4,298,618
	外来収益	1,159,470	1,179,280	1,128,537			1,186,812
	その他収益	354,032	371,053	429,680			384,064
	うち一般会計繰入金	208,983	220,444	255,219			217,139
	医業外収益	1,677,487	746,239	591,452			779,810
	他会計補助金	167,623	208,288	371,094			433,276
	補助金	1,293,622	341,343	10,105			11,317
	長期前受金	176,218	153,202	161,882			295,193
	その他	40,024	43,406	48,371			40,024
経常収益 計		6,209,084	5,656,870	5,664,226			6,649,304
特別収益		0	0	0			0
支出	医業費用	5,551,050	5,615,844	5,820,203			6,290,183
	給与費	3,230,080	3,273,873	3,492,423			3,341,008
	材料費	948,321	1,004,274	989,235			1,373,596
	うち薬品費	572,045	565,870	542,838			698,470
	経費	1,044,191	993,381	1,033,706			1,109,323
	うち委託費	546,921	555,114	593,176			563,329
	減価償却費	309,577	320,201	274,785			447,488
	その他	18,881	24,115	30,054			18,768
	医業外費用	241,106	245,208	242,882			332,647
	経常費用 計	5,792,156	5,861,052	6,063,085			6,622,830
特別費用		0	0	0			0
医業収支		-1,019,453	-705,213	-747,429			-420,689
経常収支		416,928	-204,182	-398,859			26,474

経営強化プラン（6年度～9年度）

②経営指標

区分	R4	R5	R6	R7	R8	R9 (目標値)
経常収支比率 ※1	107.2%	96.5%	93.4%			100.4%
医業収支比率 ※2	81.6%	87.4%	87.2%			93.3%
修正医業収支比率 ※3	77.9%	83.5%	82.8%			89.9%
延べ入院患者数（一般病床）	59,874人	64,340人	71,281人			73,292人
入院患者1人当たり診療収入	48,741円	51,297円	48,209円			58,651円
延べ外来患者数	88,386人	87,494人	85,295人			89,910人
外来患者1人当たり診療収入	13,118円	13,478円	13,231円			13,200円
病床利用率（一般病床）※4	61.4%	65.8%	73.1%			80.0%
給与費率 ※5	71.3%	66.7%	68.8%			56.9%
材料費率 ※6	20.9%	20.5%	19.5%			23.4%
薬品比率（材料費のうち）	12.6%	11.5%	10.7%			11.9%
委託比率 ※7	12.1%	11.3%	11.7%			9.6%
医師・看護師等従事者者数	333人	334人	336人			334人

※1 経常収益／経常費用×100で表され、100%以上であることが望ましい（100%以上で経常黒字）

※2 医業収益／医業費用×100で表され、100%以上であることが望ましい

※3 (医業収益－一般会計繰入金)／医業費用×100で表され、経営の収益性を示す

※4 ドック8床を除いた一般病床267床における病床利用率

※5 紹与費／医業収益×100で表される

※6 材料費／医業収益×100で表される

※7 委託費／医業収益×100で表される

3. 令和6年度取り組み結果の概要

1. 収支状況 (P.3 参照)

【収益】

医業収益は延べ入院患者数の増加による入院収益の増などにより5,072,774千円と対前年度162,142千円(+3.3%)となり昨年度に比べ上昇しました。一方、医業外収益は新型コロナウイルス感染症の5類変更に伴う補助金の皆減により減少し、結果として総収益は5,664,100千円と対前年度7,230千円(0.1%)の増となりました。

【費用】

国の人事院勧告に沿ったベースアップに伴う人件費の増加等により、総費用は6,062,588千円と対前年度201,535千円(3.4%)の増となりました。

【収支】

この結果、398,859千円の当年度純損失となり、経常収支は昨年度に比べ194,677千円悪化しました。

2. 経営指標 (P.4 参照)

【収支比率】

経常収支比率は93.4%($\triangle 3.1\%$)、医業収支比率は87.2%($\triangle 0.2\%$)、修正医業収支比率は82.8%($\triangle 0.7\%$)となりました。

【患者数・診療単価】

平均在院日数が13.29日から14.11日に長期化し、一般病床利用率も73.1%(+7.3%)に上昇したため、延べ入院患者数は71,281人と対前年度6,941人の増(+10.8%)となりましたが、1人当たり診療単価は48,209円と対前年度3,088円の減($\triangle 6.0\%$)となりました。

また、令和5年10月から地域医療支援病院として他の保険医療機関等からの紹介なしに受診された場合、初診時又は再診時に保険医療費とは別に選定療養費の支払いが必要となったことにより、延べ外来患者数は85,295人と対前年度2,199人の減($\triangle 2.5\%$)となり、1人当たり診療単価も13,231円と対前年度247円の減($\triangle 1.8\%$)となりました。

【各経費比率】

給与費率は、国の人事院勧告に沿ったベースアップに伴う人件費の増加に加え、病院再整備のための人員増等により68.8%(+2.1%)となりました。今後10%以上の削減が必要なため、1人当たり入院診療単価の増などにより医業収益の増加に一層取り組んでいく必要があります。

3. 事業運営

【役割・機能の最適化と連携の強化】

政策的医療の役割を担う公立病院として、新型コロナウイルス感染症や結核等の感染症対応を行ったほか、約2,200台の救急車受け入れや、全身麻酔の手術を650件を実施するなど急性期医療の充実を目指し取り組んできました。また、令和6年1月の能登半島地震を受け災害拠点病院としての必要性を再認識し、消防局と連携したはしご車での救助活動訓練など実施しました。

新型コロナウイルス感染症により休止しておりましたまちなかサロンも令和6年6月から再開し、28回開催のうえ延べ1,142人の市民の方にお越しいただき、地域交流の場の創設や市民の健康寿命の延伸に寄与してきました。

【医師・看護師等の確保と働き方改革】

就職活動フェアに3回出展、看護学校訪問などにより人材の確保を積極的に行いました。また、看護部研修センターの設置や認定看護師（心不全看護）の資格も1名取得など医療人材の育成においても力を入れております。

【新型感染症拡大時に備えた平時からの取組】

地域連携感染対策合同カンファレンスを4回実施し、院内・院外から併せて合計100名以上の医療従事者が参加することで、地域医療の感染対策向上を図りました。また、院内職員を対象とした研修も2回実施したことに加え、新規採用職員対象や看護補助者対象など適宜必要な研修も実施しました。

【施設・設備の最適化】

かかりつけ医専用の検査機器オンライン予約枠を整備し、地域の医療従事者との連携を強化しました。また、自動精算機・電子処方箋の導入を行い利便性の向上に努めました。

【新病院再整備】

病院の移転整備に向け、平和町公園を候補地とした「金沢市立病院再整備基本計画」を策定するとともに、新病院に求められる空間デザイン等について金沢美術工芸大学と共同研究を実施しました。

4. 目標達成に向けた具体的取組

役割・機能の最適化と連携の強化
1) 本院の果たすべき役割
① 急性期医療の充実
<ul style="list-style-type: none">・総合医等救急対応医師を1名増員する・認定看護師（救急看護）等を1名養成する・救急車搬送台数を年間2,500台以上受け入れる・全身麻酔を使った手術を年間800件以上実施する
② 感染症医療の充実
<ul style="list-style-type: none">・保健所・医師会と連携した感染対策カンファレンス・研修を年4回以上、院内職員を対象とした院内感染対策研修を年2回以上実施する・認定看護師（感染管理）2名体制を維持する
③ 災害医療の充実
<ul style="list-style-type: none">・DMAT3チーム体制を構築する・職員に対する災害医療の教育・訓練を年1回行う
④ 専門医療の充実
<ul style="list-style-type: none">・脳血管内治療専門医を1名確保する・睡眠医療認定技師を1名養成する・認知症ケアチーム等のチーム医療において、チーム構成員となるために必要な研修を毎年1名が受講する
⑤ 在宅療養後方支援病院としての役割・機能
<ul style="list-style-type: none">・遠隔モニタリングシステムを継続的に活用する・在宅復帰率を97.5%以上にする
2) 機能分化・連携強化
① 機能分化・連携強化の推進
<ul style="list-style-type: none">・地域の医療従事者にする研修会を年12回以上開催する・希望する介護施設に研修会を年1回以上開催する・紹介率を72.0%以上にする・逆紹介率を85.0%以上にする
② 医療介護ネットワークの推進
<ul style="list-style-type: none">・介護福祉施設等と患者情報共有化を実施する
3) 住民参加型医療の実践
<ul style="list-style-type: none">・ホスピタリティ・アートプロジェクトを継続的に実施する・まちなかサロンを再開し、医療講座等を通した市民の健康寿命延伸を推進する

医師・看護師等の確保と働き方改革

1) 医師・看護師の確保

- ・ 医師・看護師の就職活動フェアに年3回以上出展する
- ・ 看護学校訪問を年1回以上行う
- ・ 看護学生のインターンシップを年1人以上受け入れる
- ・ 認定看護師、特定行為看護師等を年1人ずつ育成する

2) 臨床研修医の受け入れ等を通じた若手医師の確保

- ・ ナンシー市ロレーヌ大学への海外研修を継続的に実施する
- ・ 臨床研修医の在籍人数を8人以上にする

3) 医師の働き方改革への対応

① 労務管理の適正化

- ・ 時間外労働時間を日次で把握できる仕組を構築する

② 医師間の業務整理及びタスクシフト・タスクシェア

- ・ 特定行為看護師を年1人ずつ育成する

③ 子育て環境の整備

- ・ 院内保育、病児保育時間を拡大する

新興感染症拡大時に備えた平時からの取組

- ・ 保健所・医師会と連携した感染対策カンファレンス・研修を年4回以上、院内職員を対象とした院内感染対策研修を年2回以上実施する
- ・ 認定看護師（感染管理）2名体制を維持する

施設・設備の最適化

1) 情報セキュリティ対策

- ・ 情報セキュリティに関する事故0件
- ・ 年1回、情報セキュリティ研修を実施する

2) 予約システムの整備

- ・ 人間ドックのオンライン予約を整備する
- ・ かかりつけ医専用の検査機器オンライン予約枠を整備する

3) 支払方法の多様化、電子処方箋の導入

- ・ 自動精算機を導入する
- ・ 電子処方箋を導入する

（1）役割・機能の最適化と連携の強化

施策目標 1）本院の果たすべき役割

①急性期医療の充実

取り組み	年間救急車搬送台数2,000台以上を継続することで、地域医療体制確保加算を維持し、救急機能と経営強化の両立を図ります。また、「断らない救急医療体制」の構築のため、救急対応が可能な人材確保に向けて、総合医等の配置や、救急認定・特定看護師等の養成を行います。併せて、最繁時に医師や看護師等の配置を厚くすることで救急応需率を向上させます。					
評価指標	経営強化プラン（6年度～9年度）					
指標名	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度 (目標値)
総合医等救急対応医師を1名増員する	1名	1名	1名			2名
認定看護師(救急看護)等を1名養成する（在籍人数）	2名	2名	2名			3名
救急車搬送台数を年間2,500以上受け入れる	2,031台	2,283台	2,198台			2,500台
全身麻酔の手術件数を年間800件以上実施する	539件	578件	650件			800件
令和6年度の取り組みと評価	令和6年度の救急依頼件数は2,878件、救急車受入数は2,198件、応需率は76.4%となりました。昨年に比べ応需率は78.1%→76.4%と1.7%の減となっておりますが、下半期の応需率が前年比で約4%減少しているためです。昨年度に比べ、救急受入件数・応需率ともに減少となっており目標値に対し未達成となっているため、人員体制を見直すなど「断らない救急医療体制」を確保して参ります。					
	また、全身麻酔の手術件数は650件と前年に比べ72件の増加となりました。診療科別では主に整形外科の対前年度74件の増が要因です。目標値としては未達成ですが、引き続きこの伸び率を継続できるよう、全診療科において必要に応じ適宜実施して参ります。					

（1）役割・機能の最適化と連携の強化

施策目標 1）本院の果たすべき役割

②感染症医療の充実

取り組み	今後の新興感染症対応は、フェーズⅠで20床、フェーズⅡ以降で40床を確保し、中等症患者への対応が行えるよう体制を整備します。感染管理認定看護師については2名体制を維持していきます。 感染症医療は当院の使命であり、引き続き新興・再興感染症、結核患者に対応できる体制を整備していくことを基本とします。																																	
評価指標	経営強化プラン（6年度～9年度）																																	
<table border="1"><thead><tr><th>指標名</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>7年度</th><th>8年度</th><th>9年度 (目標値)</th></tr></thead><tbody><tr><td>保健所・医師会と連携した感染対策カンファレンス・研修を年4回以上実施する</td><td>4回</td><td>4回</td><td>4回</td><td></td><td></td><td>4回</td></tr><tr><td>院内職員を対象とした院内感染対策研修を年2回以上実施する</td><td>2回</td><td>2回</td><td>2回</td><td></td><td></td><td>2回</td></tr><tr><td>認定看護師（感染管理）の2名体制を維持する</td><td>2名</td><td>2名</td><td>2名</td><td></td><td></td><td>2名</td></tr></tbody></table>							指標名	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度 (目標値)	保健所・医師会と連携した感染対策カンファレンス・研修を年4回以上実施する	4回	4回	4回			4回	院内職員を対象とした院内感染対策研修を年2回以上実施する	2回	2回	2回			2回	認定看護師（感染管理）の2名体制を維持する	2名	2名	2名			2名
指標名	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度 (目標値)																												
保健所・医師会と連携した感染対策カンファレンス・研修を年4回以上実施する	4回	4回	4回			4回																												
院内職員を対象とした院内感染対策研修を年2回以上実施する	2回	2回	2回			2回																												
認定看護師（感染管理）の2名体制を維持する	2名	2名	2名			2名																												
令和6年度の取り組みと評価	令和6年度は、6月に「感染対策環境ラウンド」、7月に「麻疹を疑う患者の診療について」、9月に「内服抗菌薬について」、11月に「蛍光塗料を用いた個人防護服の脱衣と手洗いについて」と昨年度に引き続き合計4回の地域連携感染対策合同カンファレンスを実施しました。 また、院内職員を対象とした感染対策研修についても、全職員向け2回に加え、新規採用職員向けや看護補助者向け、その他対象職員向けにも適宜研修を実施し、感染症指定病院としての体制の整備に努めました。																																	

（1）役割・機能の最適化と連携の強化

施策目標 1）本院の果たすべき役割

③災害医療の充実

取り組み

今後は、隊員の増強を図りDMAT 3チーム体制を目指すとともに、平時においても職員に対する災害医療の教育・訓練や消防局、危機管理部局等、金沢市の関連部局との連携強化を図り、金沢市の災害医療の中心としての役割を担います。

評価指標

経営強化プラン（6年度～9年度）

指標名	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度 (目標値)
DMATの3チーム体制を構築する	2チーム	2チーム	2チーム			3チーム
職員に対する災害医療の教育・訓練を年1回行う	1回	1回	1回			1回

令和6年度の取り組みと評価

令和6年度は、新たにDMAT隊員を増強するため、職員4名が研修を受講しました。また、11月に震度6強の地震を想定して、消防局との合同による地震・火災総合訓練を実施しました。

(1) 役割・機能の最適化と連携の強化

施策目標 1) 本院の果たすべき役割

④専門医療の充実

取り組み

●脳・心血管センター

脳神経外科医、循環器内科医、神経内科医、救命救急医が連携し、脳・心血管疾患の外科的治療、血管内治療、冠動脈再建術、カテーテル焼灼術等、先端的医療を実施します。

●呼吸器・睡眠センター

呼吸器内科に糖尿病、循環器内科の医師が参加し、肺がん、慢性閉塞性肺疾患の間質性肺炎、睡眠時無呼吸の治療を実施します。なお、病院再整備時には呼吸器外科の設置を目指し、内科・外科両面からのアプローチ実施可能な体制を整備します。

●消化器センター

消化器内科、消化器外科が連携し、肝・胆・脾をはじめとした消化器疾患に総合的に取り組む体制を強化します。そのため、外来を統合し、消化器・浮腫外来を開設します。

また、医療、看護、栄養指導等、各専門的な医療従事者によるチーム医療の充実に向けた取組も行っており、今後も認知症ケアチーム、排尿ケアチーム、呼吸器ケアチーム、栄養サポートチーム等のチーム医療を実践していきます。

評価指標

経営強化プラン（6年度～9年度）

指標名	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度 (目標値)
脳血管内治療専門医を1名確保する	1名	1名	1名			1名
睡眠医療認定技師を1名養成する（在籍人数）	1名	1名	1名			2名
認知症ケアチーム等のチーム医療において、チーム構成員となるために必要な研修を毎年1名受講する	1名	1名	1名			1名

令和6年度の取り組みと評価

睡眠医療認定技師は養成中の職員が令和6年度に退職となつたため検査技師不足により養成が中断しました。現在人員確保のうえ、体制を整え令和7年度下期より育成を開始し、資格取得は令和9年度を目標としております。

（1）役割・機能の最適化と連携の強化

施策目標 1) 本院の果たすべき役割

⑤在宅療養後方支援病院としての役割・機能

取り組み		経営強化プラン（6年度～9年度）					
評価指標							
指標名	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度 (目標値)	
遠隔モニタリングシステムを継続的に活用する	活用	活用	活用				活用
在宅復帰率を80.0%以上にする	79.3%	82.1%	77.5%				80.0%

令和6年度の取り組みと評価	
令和6年度の診療報酬改定により、在宅復帰率を算定する計算において、対象患者として含める条件から一部除外（短期滞在手術等基本料1・3を算定する患者など）されたことにより、令和6年度以降の在宅復帰率は減少しました。在宅復帰率を向上させる取り組みとしては、入院前から退院先を見据えたベッドコントロール、転棟について移動先を考慮するなどを実践しています。	

（1）役割・機能の最適化と連携の強化

施策目標 2）機能分化・連携強化

①機能分化・連携強化の推進

取り組み

●周辺医療機関との機能分化・連携強化

現在当院では、脳卒中患者に対するクリニカルパス連携により、当院の急性期病棟と金沢赤十字病院の回復期リハビリテーション病棟との連携を実施しています。今後も専門分野ごとに連携強化に向けた協議を継続していきます。

●かかりつけ医との機能分化・連携強化

生活習慣病、特に糖尿病性腎症の重症化予防に関し、かかりつけ医との二人主治医性を実施します。

当院では開業医訪問を行い、専門医療やサービス等を周知することで、今後も患者を紹介しやすい環境の整備に努めています。

登録医との「市立病院センター医制度」を創設し、医療情報の共有化や定期的な意見交換による情報の共有、共同研修会の開催や、機関誌の共同発行などにより更なる連携強化を図っていきます。

●介護・福祉施設との連携強化

理学療法士や作業療法士、管理栄養士がいない介護・福祉施設に対して、職員を派遣しサポート体制を強化します。

評価指標

経営強化プラン（6年度～9年度）

指標名	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度 (目標値)
地域の医療従事者による研修会を年12回以上開催する	21回	18回	14回			12回
希望する介護施設に研修会を年1回以上開催する	-	-	1回			1回
紹介率を72%以上にする	64.2%	74.8%	87.7%			72.0%
逆紹介率を85%以上にする	81.4%	90.4%	114.5%			85.0%

令和6年度の取り組みと評価

令和6年度は地域の医療従事者との症例検討会を8回、研修会を6回、合計14回を実施しました。6年度は介護施設より希望があり、研修会を行いました。

紹介率、逆紹介率については87.7%と114.5%と目標値を大幅に上回る結果となりました。これは地域医療支援病院として令和5年10月から選定療養費が必要となった結果、救急を除いた初診患者数が減少したこと、紹介状持参の患者が増加したことによるものです。紹介患者数は令和4年度は3,936人、令和5年度は3,985人、令和6年度は4,354人と増加しているため引き続き地域の医療連携を深め、紹介患者数及び逆紹介患者数の増加を図ります。

（1）役割・機能の最適化と連携の強化

施策目標 2）機能分化・連携強化

②医療介護ネットワークの推進

取り組み	地域の医療機関や介護・福祉施設との連携や、救急医療を円滑に行うため、患者診療情報の共有化を目指します。					
評価指標	経営強化プラン（6年度～9年度）					
指標名	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度 (目標値)
介護福祉施設等と患者情報共有化を実施する	—	—	一部実施			実施
令和6年度の取り組みと評価	令和6年度から、「地域医療連携システム」を試験的に導入しました。一部の開業医や介護施設にタブレットを配布し、能登半島地震等で病院と救急車間で利活用されたシステムを応用することで、画像データ等の情報を容易に送受信できる環境を整備し、迅速な救急医療体制を構築するものです。					

（1）役割・機能の最適化と連携の強化

施策目標 3）住民参加型医療の実践

①住民参加型医療の実践

取り組み

当院は、地域住民のための公立病院として、「地域を支える病院・地域に支えられる病院」を目指しております、以下の取組をもとに、住民参加型の病院運営を積極的に推進します。

● ホスピタリティアート・プロジェクト

もホスピタリティアート・プロジェクトを通して、より「味わいのある病院」を目指すとともに、地域住民の参画を進め、さらに活動の魅力を伝えていきます。

● 地域との協働

平成30年度に開館した「まちなかサロン」においては、市民の健康寿命の延伸を図るため、金沢美術工芸大学、金沢学院大学、地域ボランティアと連携し、地域の高齢者向けに、「栄養、運動、創作、医療」などの健康講座を開催し、地域の高齢者に集いの場を提供してきました。コロナ禍において中断していた「まちなかサロン」を再開していきます。

評価指標

経営強化プラン（6年度～9年度）

指標名	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度 (目標値)
ホスピタリティアート・プロジェクトを継続的に実施する	実施	実施	実施			実施
まちなかサロンを再開し、医療講座等を通した市民の健康寿命延伸を推進する	－	－	実施			実施

令和6年度の取り組みと評価

令和6年度も引き続きHAP（ホスピタリティアート・プロジェクト）を実施し、8月には光の回廊シリーズとして「おいしい能登」をテーマに1階待合ホールの大ガラスにステンドグラス風の装飾を行いました。また、9月にはホスピタルギャラリーを開催し、約170点の出展応募があり、来場者数も約670名と多くの地域住民の方との交流の場となりました。

新型コロナウイルス感染症により休止しておりましたまちなかサロンを令和6年6月から再開し、28回開催のうえ延べ1,142人の市民の方にお越しいただき、金沢美術工芸大学・金沢学院大学との連携や、地域住民の健康寿命の延伸に寄与する活動を行いました。

いずれも目標としている継続実施や再開を達成できたため、引き続き多くの住民の方と交流できる様、精力的に開催していきます。

（2）医師・看護師等の確保と働き方改革

施策目標 1）医師・看護師等の確保

①医師・看護師等の確保

取り組み	医師確保に向けて、大学と連携し、医学生の臨床教育に参加するとともに、初期臨床研修医、内科専攻医の採用に積極的に取り組んでいきます。 当院の看護において、教育開発室を設置し、看護師の初期臨地実習、看護研究等に積極的に取組、認定看護管理者、認定看護師、特定行為看護師等の資格取得を目指します。 当院は、奨学金（学費等の6割補助）制度による、特有の大学院進学サポートの仕組みを設けており、制度周知・活用による質の高い看護師の育成・教育を推進します。					
評価指標	経営強化プラン（6年度～9年度）					
指標名	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度 (目標値)
医師・看護師の就職活動フェアに年3回以上出展する	4回	4回	3回			3回
看護学校訪問を年1回以上行う	1回	2回	1回			1回
看護学生のインターンシップを年5人以上受け入れる	4人	4人	8人			5人
認定看護師、特定行為看護師等を年1人ずつ育成する	1人	1人	1人			1人
令和6年度の取り組みと評価	令和6年度は、5月、2月、3月に就活フェアに出展、3月に看護学校の訪問、看護学生の短期インターンシップを8名受け入れるなど、人材の確保に努めました。 また、心不全看護の認定看護師の資格を1名取得しました。					

（2）医師・看護師等の確保と働き方改革

施策目標 2）臨床研修医の受け入れ等を通じた若手医師の確保

①臨床研修医の受け入れ等を通じた若手医師の確保

取り組み	<p>金沢市の姉妹都市であるフランスのナンシー市にあるロレーヌ大学との交流を生かした海外研修を行っており、魅力のある研修プログラムを提供しています。今後も引き続きプログラムの充実に努めます。</p> <p>専攻医の獲得に向けては、県内外の臨床研修医への情報発信、働きやすい職場づくり等の取組を推進し、医師のキャリア形成への貢献とともに、地域に定着する医師の確保を目指します。</p>					
評価指標	<p>経営強化プラン（6年度～9年度）</p>					
指標名	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度 (目標値)
ナンシー市ロレーヌ大学への海外研修を継続的に実施する	一	実施	実施			実施
臨床研修医の在籍人数を8人以上にする	3人	5人	7人			8人
令和6年度の取り組みと評価	<p>医師の育成と研究を通して、医療分野における両院の科学・技術交流を促進し、姉妹都市交流を一層深めることを目的とし、令和6年度も引き続き「地域圏立ナンシー大学病院と金沢市立病院との交換枠組み協定」に基づき、研修医等の相互派遣を実施しました。7月には2名の医学生を受入れ、診療科見学、カンファレンス参加、医療機器等の操作研修、意見交換などを実施し、11月には当院の臨床研修医2名をナンシー大学病院へ派遣し、医療人材の育成に注力してきました。</p> <p>また、臨床研修医の基幹型2年生が3名、1年生が1名、協力型1年生が3名の計7名の採用及び受入れをしました。</p> <p>今後も海外研修を通じた医師のキャリア形成への貢献を引き続き行い、一層多くの臨床研修医の採用及び受入れを行い、地域の医療人材の育成に貢献していきます。</p>					

（2）医師・看護師等の確保と働き方改革

施策目標 3）医師の働き方改革への対応

①労務管理の適正化、業務整理及びタスクシフト・タスクシェア、子育て環境の整備

取り組み

● 労務管理の適正化

客観的な労働時間管理システムを活用し、正確な出退勤状況の把握及び管理を行います。労働と自己研鑽の区分けを明確化した上で、自己研鑽については労働時間外として区分し取り扱います。また、時間外労働時間を日次で把握できる仕組を構築します。

● 医師間の業務整理及びタスクシフト・タスクシェア

複数主治医制を導入することにより医師間で業務の共有を行い、有給休暇取得の促進等、働きやすい職場環境を整備しています。また、医師事務作業補助者の増員、特定看護師の育成によりタスクシフトを推進します。

● 子育て環境の整備

院内保育、病児保育の時間を拡大し、子育て世代にとって安心して働ける職場環境を整備しています。

評価指標

経営強化プラン（6年度～9年度）

指標名	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度 (目標値)
時間外労働時間を日次で把握できる仕組みを構築する	構築済	構築済	構築済			構築済
特定行為看護師を年1人ずつ育成する	0人	1人	0人			1人
院内保育、病児保育時間を拡大する	月～金 8:00-18:00	月～金 8:00-18:00	月～金 8:00-18:00			拡大

令和6年度の取り組みと評価

時間外労働時間については金沢市役所本庁と同様、庶務事務システムで管理しており、時間外労働についても労働と自己研鑽を区別した申請形態を導入しています。また、同システム内で各月の累計時間外労働時間も把握できる様になっています。

令和6年度の特定行為看護師については該当者なしでしたが、令和7年度は2名の受講・修了見込みです。

院内託児所については、火・木曜日の16:00～翌11:00の間で指定する時間帯、土・日曜日の8:00～19:00の間で指定する時間帯となっており、病児保育については、月～金曜日の8:00～18:00となっており、働き安い環境の整備として拡充を検討していきます。

（3）新興感染症拡大時に備えた平時からの取組

施策目標 1）新興感染症拡大時に備えた平時からの取組

①新興感染症拡大時に備えた平時からの取組

取り組み	<p>新興感染症発生時・まん延時においては、宿泊療養施設等に人材を派遣する必要があることから、感染症対応の高度な専門知識及び実践力を有する感染管理認定看護師の2名体制を維持し、地域の感染症医療に貢献します。</p> <p>院内感染対策の徹底のために、院内感染対策講座の受講を通じて日頃より職員への教育を行います。また、感染対策マニュアルを適宜更新し、院内での共有を図ります。</p> <p>他の医療機関と定期的に感染防止対策に向けた教育研修、情報交換を行い、地域全体における感染対策を強化します。</p>					
評価指標	<p>経営強化プラン（6年度～9年度）</p>					
指標名	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度 (目標値)
保健所・医師会と連携した感染対策カンファレンス・研修を年4回以上実施する	4回	4回	4回			4回
院内職員を対象とした院内感染対策研修を年2回以上実施する	2回	2回	2回			2回
認定看護師（感染管理）の2名体制を維持する	2名	2名	2名			2名
令和6年度の取り組みと評価	<p>令和6年度は、6月に「感染対策環境ラウンド」、7月に「麻疹を疑う患者の診療について」、9月に「内服抗菌薬について」、11月に「蛍光塗料を用いた個人防護服の脱衣と手洗いについて」と昨年度に引き続き合計4回の地域連携感染対策合同カンファレンスを実施しました。</p> <p>また、院内職員を対象とした感染対策研修についても、全職員向け2回に加え、新規採用職員向けや看護補助者向け、その他対象職員向けにも適宜研修を実施し、感染症指定病院としての体制の整備に努めました。</p>					

（4）施設・設備の最適化

施策目標 1）施設・設備の最適化

①情報セキュリティ対策

取り組み	近年、病院経営においてランサムウェアやウイルス対策の強化は重大な課題となっています。その課題に向け、医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第6.0版の遵守及び情報セキュリティ対策マニュアルを都度更新し、体制及び対応方針の整備・強化を行います。さらに院内職員に対して教育研修を行い、情報セキュリティ対策を強化します。					
評価指標	経営強化プラン（6年度～9年度）					
経営強化プラン（6年度～9年度）						
指標名	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度 (目標値)
情報セキュリティに関する事故 0件	0件	0件	0件			0件
年1回情報セキュリティ研修を実施する	—	—	1回			1回
令和6年度の取り組みと評価	令和6年度は情報セキュリティに関する事故は発生しませんでした。研修については、4月に新任職員向けのセキュリティ研修は実施しているが、全体職員については未実施のため、令和7年度から全体職員向けのものを実施していく予定です。					

（4）施設・設備の最適化

施策目標 1）施設・設備の最適化

②予約システムの整備

取り組み	外来予約や外来診療情報など、かかりつけ医、介護・福祉施設及び調剤薬局と情報共有を促進することで連携を強化し、患者の負担軽減を図ります。 人間ドックのオンライン予約、かかりつけ医専用の検査機器オンライン予約に関するシステムを構築し、患者及び開業医の利便性向上を図ります。					
評価指標	経営強化プラン（6年度～9年度）					
指標名	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度 (目標値)
人間ドックのオンライン予約を整備する	—	—	検討中			整備済
かかりつけ医専用の検査機器オンライン予約枠を整備する	—	—	整備済			整備済
令和6年度の取り組みと評価	かかりつけ医専用の検査機器オンライン予約が可能なシステムを令和6年度10月に構築し、開業医よりも高度な読影や検査を当日中など迅速に実施できる体制を整えました。令和6年度の利用実績は25件だったので、今後より浸透し地域医療の充実に貢献していきたいと思います。					

（4）施設・設備の最適化

施策目標 1）施設・設備の最適化

③支払い方法の多様化、電子処方箋の導入

取り組み	今後は、患者の更なる利便性向上のため、キャッシュレス化や自動精算機の導入を目指します。重複投薬の防止など、より質の高い処方を目指すため、医療機関や薬局間での情報連携が可能な電子処方箋の導入を目指します。																										
評価指標	<p>経営強化プラン（6年度～9年度）</p> <table border="1"><thead><tr><th>指標名</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>7年度</th><th>8年度</th><th>9年度 (目標値)</th></tr></thead><tbody><tr><td>自動精算機を導入する</td><td>—</td><td>—</td><td>導入</td><td></td><td></td><td>導入済</td></tr><tr><td>電子処方箋を導入する</td><td>—</td><td>—</td><td>導入</td><td></td><td></td><td>導入済</td></tr></tbody></table>						指標名	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度 (目標値)	自動精算機を導入する	—	—	導入			導入済	電子処方箋を導入する	—	—	導入			導入済
指標名	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度 (目標値)																					
自動精算機を導入する	—	—	導入			導入済																					
電子処方箋を導入する	—	—	導入			導入済																					
令和6年度の取り組みと評価	<p>患者の利便性の向上（待ち時間短縮、感染リスクの低減、外国人患者への対応力向上等）として、令和6年9月から自動精算機を導入しました。</p> <p>また、患者の利便性の向上（待ち時間短縮、処方箋紛失リスクの低減等）や医療の質の向上（医療機関や薬局間での情報共有等）のため令和7年2月に電子処方箋を導入しました。</p>																										

5. 取り組みに対する評価

1. 令和6年度の取り組みに対する評価

当院は救急医療、災害医療、感染症医療等、公立病院として地域医療の中核的な役割を担っており、令和5年からは「地域医療支援病院」として南部地域の拠点病院として、地域医療全体の充実に努めています。

令和6年度は経営強化プランが策定された最初の1年間であり、37ある評価指標のうち24の項目において取組を進めることができました。一方、策定時から診療報酬改定や医療現場環境の変化を踏まえ、一部評価指標の見直しについても必要と感じました。

また、課題として、新病院再整備を踏まえた収支改善も迅速に行う必要があるため、より一層集患効果の見込める事業の展開や広報活動、不要な支出の削減や事業統合等を検討していきます。

今後も引き続き、石川中央医療圏の結核をはじめとする二類感染症対応病院として感染症医療体制を確保するほか、高齢者人口増加に伴う高齢者救急に対する救急医療体制の更なる強化、災害拠点病院としての病院機能の充実など、自治体病院として政策的医療の役割を担っていくとともに、地域医療支援病院として、地域の医療機関や介護福祉施設との機能分担、更なる連携強化を図り、金沢市南部地区や南部近郊地区等の山側エリアの中核としての地域密着型急性期病院としての機能強化に努めて参ります。

2. 評価委員会について

(1) 名 称：金沢市立病院経営強化プラン検討委員会

(2) 委員名簿 別添名簿のとおり

(3) 設置要綱 別添要綱のとおり

金沢市立病院経営強化プラン検討委員会 委員名簿

氏名	役職等
稻木 紀幸	金沢大学教授
今村 知明	奈良県立医科大学教授
鍛治 恭介	金沢市医師会会長
小林 千鶴	石川県看護協会会長
高村 雅之	金沢大学教授
高柳 晃一	金沢市社会福祉協議会会长

敬称略・50音順

金沢市立病院経営強化プラン検討委員会設置要綱

(目的及び設置)

第1条 持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン（令和4年3月29日付け総財準第72号総務省自治財政局長通知）に基づき、第4次経営計画に位置づける金沢市立病院経営強化プランの策定及び計画的な推進を図るため、金沢市立病院経営強化プラン検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項について検討を行う。

- (1) 金沢市立病院経営強化プランの策定に関する事項
- (2) 金沢市立病院経営強化プランの計画的な推進に関する事項
- (3) 新金沢市立病院経営計画の評価に関する事項
- (4) 前3号に掲げるもののほか、前条の目的を達成するために必要な事項

(組織等)

第3条 委員会は、委員6人以内で組織する。

- 2 委員は、次に掲げる者のうちから、金沢市立病院事業管理者が委嘱し、又は任命する。
 - (1) 関係団体を代表する者
 - (2) 知識経験を有する者
- 3 委員の任期は、委嘱又は任命の日から2年間とする。

(委員長)

- 第4条 委員会に委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。
- 2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。
 - 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指定する委員がその職務を代理する。
- (会議)

第5条 委員会の会議は、委員長が必要に応じて招集し、委員長が議長となる。

- 2 委員会の会議は、過半数が出席しなければ開くことができない。
- 3 委員長は、必要があると認めるときは、議事に關係ある者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、金沢市立病院事務局において処理する。

(雑則)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この要綱は、令和5年4月1日から施行する。